

新設機器！

## 共同研使用説明会

4D-Nucleofectorによる  
エレクトロポレーション  
～ゲノム編集からCar-Tまで～

エレクトロポレーター 4D-Nucleofector Xユニットシステム (Lonza)を共同研究棟9階 培養室 A (D91-02a)に新たに設置します。細胞核にDNAを直接導入することができるNucleofectorは弱い正常細胞や免疫細胞にも高い導入効率を得る事ができます。近年ゲノム編集やCar-T療法にまで応用されているNucleofectorのエレクトロポレーション。具体例を交えたセミナーを行います。セミナー後には実機を使った使用方法の説明とGFPプラスミドを導入した細胞の観察を行います。

令和2年

2月14日 金 15:00-17:00

【場所】共同研究棟7階 セミナー・会議室 (D71-09)

【定員】30名程度 (申込み不要)

15:00-16:00 「セミナー」

4D-Nucleofectorによるエレクトロポレーション～ゲノム編集からCar-Tまで～

16:00-16:30 「使用方法の説明」

実機を使って操作法を説明します。

16:30-17:00 「遺伝子導入細胞のGFP観察」

\* 終了時間は進捗状況により前後することがあります。

午前中にGFPプラスミドを導入した培養細胞を蛍光顕微鏡により観察し、導入後6～7時間ですでに発現することを確認します。

○ ご興味のある演題にご参加ください。いずれも事前申込み不要です。

※ 今年度末まで試薬キットを割引価格で購入、およびデモを個別に実施することができます。詳細は共同研HPをご参照ください。

## 4D-Nucleofector Xユニットシステムとは

- Nucleofectorプログラムと細胞種ごとに最適化された試薬キットにより細胞質へはもちろん、さらに核内への遺伝子導入を実現。
- 導電性ポリマー電極の使用により、金属イオンの流出を抑制し、細胞の生存率を向上。
- 初代細胞、免疫細胞等、遺伝子導入が難しい細胞でも高効率に遺伝子導入。
- 多くの細胞でCas9タンパク質を用いたゲノム編集が可能。



Lonza